組織率82.1％で全国３位

京都代協　第16回通常総会を開催

総会後に懇親会を開催

意見を言い合える京都代協を

京都代協（安井義幸会長）は5月25日午後2時から、京都市下京区のリーガロイヤル京都で会員56名（委任状214名、書面表決18名）参加のもと第16期（通算61期）通常総会および会員大会ならびにセミナーを、さらに6時から会員および来賓95名が出席し懇親会を開催した。

総会では安井会長が挨拶に立ち、「この1年、会長職を経験し、さまざまな有益な情報を知ることができ、また京都代協は全国の代協のなかでもメンバーが本当に真摯に、自主的に運営に当たっている組織であることも実感できた。私は仕事だけの成功で人生の成功だとは思っていない。まずは家庭、そして仕事。経営の勉強や心の学び、地域の活動やボランティア、色々な活動をバランス良くこなしていくことによって人生の成功がある。今後はリアルで仲間と会える機会が増える。みなさんには代協活動に積極的に参加いただき、みな様が会の中心になって意見を言い合える京都代協を、一緒に作っていければと思っている」と述べた。

安井会長

付議事項の審議に移り、2022年度事業報告、決算・監査報告、および23年度事業計画案、同予算案、定款変更承認の件のすべてが可決承認された。

同代協ではコロナ禍が続くなかZoom等を利用して定期理事会を開催、コンサルティングコース、仲間づくり推進（会員増強）、ぽうさいマップコンクールでの目標を達成した。会員増強では5店の新規加入があり、3月末時点で330店、組織率82・1％、全国で3位となった。定款変更では総会収集に関し通知と資料提供を書面に代え電磁的方法によりできるように変更した。

続いて行われた会員大会では、安井会長と奥田雅也企画環境委員長が登壇し、損保代理店がこれから勝ち残っていくためにどうすればいいかをディスカッション。ネット上に情報はあふれているものの、顧客が具体的な問題があった際に相談する先はむしろ減っており、いかに特徴を打ち出して相談先として思い出してもらえる存在となれるか。また、法人に対する生保を含めた全種目販売、個人の資産形成のためのファイナンシャルプランニングが今後を生き残る鍵となる。代協からの各種案内にそのためのヒントが必ずあり、それを有効活用すること。分からないことがあれば理事等に聞いてほしいと述べた。

木戸氏

休憩を挟み、朝日放送テレビ報道局情報番組デスク木戸崇之氏を講師に迎え、セミナー「阪神淡路大震災から28年」が行われた。同氏の働きかけにより、阪神・淡路大震災の時にABCが取材した映像が、未来の防災・減災に生かしてもらうために、会社の財産とせずWEB上に「阪神淡路大震災　激震の記録1995　取材映像アーカイブ（https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/）」として2020年に公開され、さまざまな賞を受賞している。

講演では、肖像権をはじめ公開にあたって検討した数々の問題や配慮、そしてこの映像から学べる多くの教訓を実際の映像を用いて伝えた。そして、受け継いだ教訓を遠い将来まで伝え続けていくために、また損保代理店として防災、減災への取組みの重要性を伝える勉強会等、さまざまなシーンでこのアーカイブを積極的に活用してほしいと呼びかけた。

懇親会は、横山健一郎日本代協副会長、損保協会近畿支部京都損保会中野将人会長、および田中英之、北神圭朗、勝目康参議院議員、福山哲郎参議院議員らの来賓を迎え、盛大に開催された。

愛知県代協　第15回通常総会を開催

ダイヤモンド3冠とプラス7冠達成

総会のもよう

愛知県代協（橋恭浩会長）は5月30日、名古屋市中区の損保ジャパン名古屋ビルで、第15回通常総会を開催した。2022年度事業報告や2023年度事業計画など6議案が審議され全て承認された。

冒頭、橋会長が次のように挨拶を行った。

「2022年度、愛知県代協は、日本代協の開催していた『目指せ、三冠王!!』キャンペーンにおいて、ダイヤモンド三冠王を達成することができた。また、プラス7冠（コンサルティングコース人数・損保協会のぽうさい探検隊マップ・交通安全出前授業・BCP策定・社労士診断）も合わせて達成することができた。

新会員増強においては、特に仲間づくりで27名の新会員を迎えることができ、会員数の純増につながった意味は大きいものがある。このような素晴らしい成果を挙げることができたのも、各委員会・支部長をはじめ会員の皆様の応援またご協力のもと、愛知県代協が一丸となって取り組んだ結果だと思う。

しかしながら、我々の目指すべき真の目標はこのようなキャンペーンに結果を出すことのみではなく、我々愛知県代協の代理店を信頼して大切な保険契約を頂いているお客様に対してどのような新しい価値を提供できるかである。

また、流通・金融・窓販等々保険を販売する窓口は多岐にわたっている。我々は顧客本位の業務運営に注力し代理店価値向上の事業活動に特化すべきであると考える。このような顧客本位の企業活動を行うためにも、代協会員間の意見や情報の交換を活発に行うことが必要と考え、今年度は理事1泊研修会を7月に行うことにした。その場で、支部の活性化や例会の仕組み作りを討議し、会員のみなさんに代協会員の誇りとプライドを持って活動頂けるようにしていく」

そのあと、来賓の損保協会中部支部委員長の中西貴志氏、財務省東海財務局理財部金融監督第四課保険監督室室長の榊原章人氏、日本代協理事の下村文則氏がそれぞれ挨拶した。

続いて議事進行に入り、第1号議案（2022年度事業報告案承認の件）、第2号議案（2022年度決算報告案承認並びに監査報告）、第3号議案（2023年度事業計画案承認の件）、第4号議案（2023年度予算案承認の件）、第5号議案（本会の決議の趣旨に反しない限りその修正を会長に一任する件）、第6号議案（その他）がそれぞれ可決承認された。

その後、会員増強への取組みとして多数の入会紹介者への感謝状の贈呈、「東海交通遺児を励ます会」に、昨年1年間の募金活動を通じての寄付金の贈呈が行われた。